



2010年9月期 第2四半期決算説明会資料

株式会社篠崎屋 2926

<http://www.shinozakiya.com>

2010年5月7日

目次

	PAGE
2010年9月期第2四半期 決算説明	3
2010年9月期 事業方針	11
会社概要・株式の状況	22

2010年9月期 第2四半期 決算説明

損益計算書(個別)

単位：千円	09年9月期 第2四半期累計	構成比	10年9月期 第2四半期累計	構成比	前年同期比
売上高	2,770,779	100.0%	2,830,946	100.0%	102.2%
小売事業	856,427	30.9%	1,756,064	62.0%	205.0%
外食事業	408,573	14.7%	263,588	9.3%	64.5%
卸売事業	1,505,780	54.3%	811,294	28.7%	53.9%
売上原価	1,755,487	63.4%	1,659,805	58.6%	94.5%
売上総利益	1,015,291	36.6%	1,171,140	41.4%	115.4%
販管費	953,039	34.4%	1,045,721	36.9%	109.7%
営業利益	62,252	2.2%	125,418	4.4%	201.5%
営業外収益	10,368	0.4%	6,926	0.2%	66.8%
営業外費用	16,238	0.6%	12,032	0.4%	74.1%
経常利益	56,381	2.0%	120,312	4.2%	213.4%
特別利益	19,100	0.3%	3,335	0.1%	17.5%
特別損失	861,786	0.3%	1,594	0.1%	0.2%
当期純利益	798,071	28.8%	109,951	3.9%	-

期首計画との差異要因

単位:百万円		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
個別	期首発表予想	2,656	100	94	71
	実績	2,830	125	120	109
	増減率	6.5%	25.0%	27.6%	53.5%
	前期実績	2,770	62	56	798

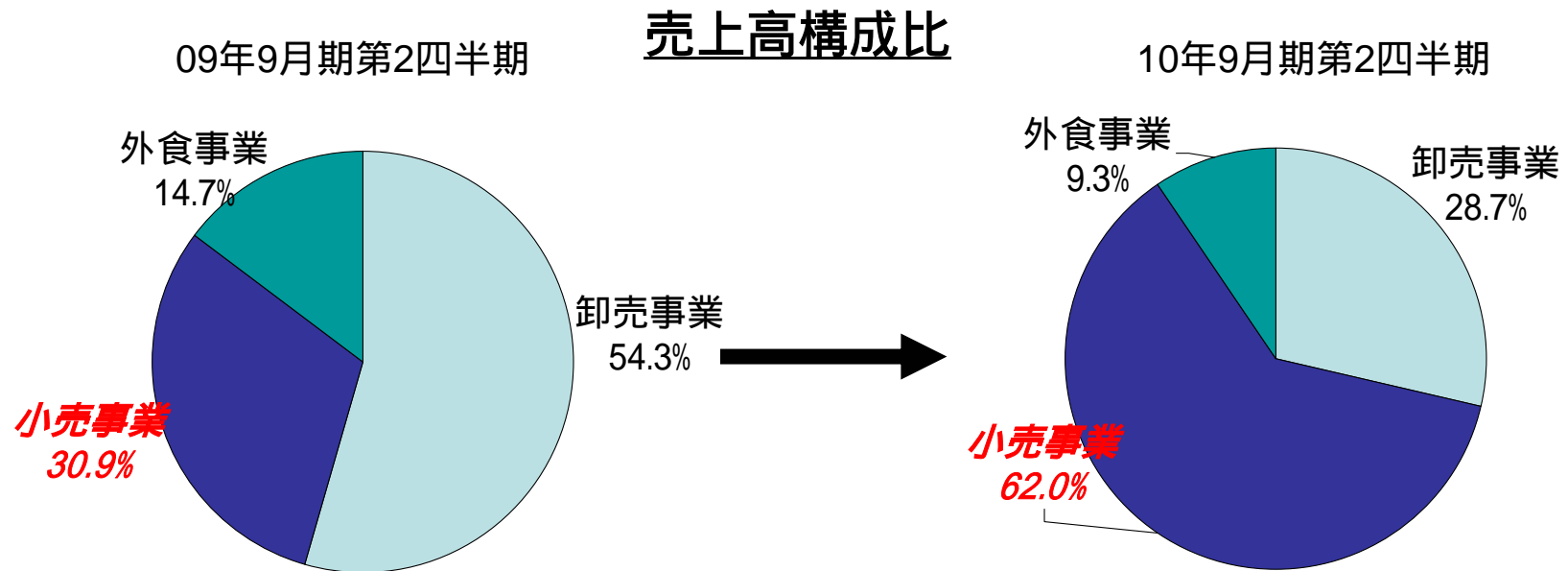
(期首発表予想値は4月22日に修正しております)

修正の主な要因

売上高	<ul style="list-style-type: none"> • 主な要因は小売事業において計画比113%を達成。 「価格を上げずに価値を上げる」をテーマとした商品開発および販売力強化のために「新商品情報」の充実とイベント等による顧客数増加。
営業・経常利益	<ul style="list-style-type: none"> • 小売事業の売上高増加分と新商品を中心に利益率の高い製品の販売比率が高まり粗利益率が上昇。
純損益	<ul style="list-style-type: none"> • 営業利益、経常利益増加分。 • 外食事業で一部減損を見込んでいたが、運営手法の見直しにより必要がなくなった。

セグメント別実績 - 売上高

単位:千円		2009年9月期 第2四半期	構成比	2010年9月期 第2四半期	構成比	前年同期比
個別	小売事業	856,427	30.9%	1,756,064	62.0%	205.0%
	外食事業	408,573	14.7%	263,588	9.3%	64.5%
	卸売事業	1,505,780	54.3%	811,294	28.7%	53.9%
	合計	2,770,779	100.0%	2,830,946	100.0%	102.2%



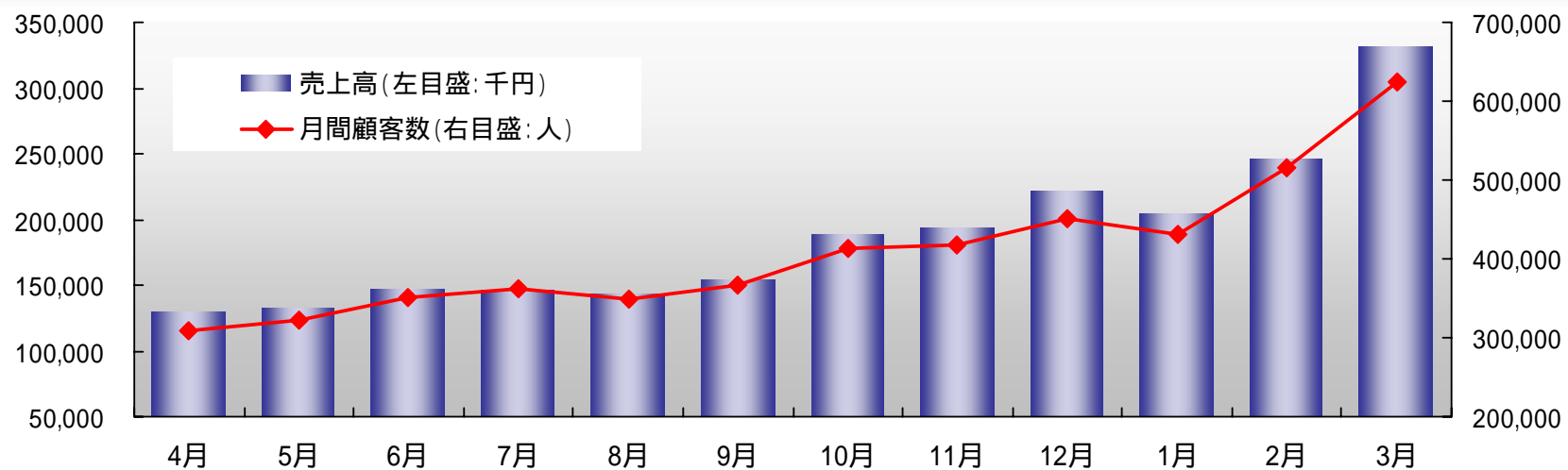
セグメント別実績 - 小売事業

1. 出店状況

		前期末 店舗数	増加	減少	当期末 店舗数
三代目茂蔵 工場直売所	直営小売店	35	19	-	54
	FC店	86	11	3	94
茂蔵Deli (中食事業)	直営店	7	-	7	-
	FC店	10	-	5	5
小売事業合計		138	30	15	153

- ▶ 三代目茂蔵工場直売所(直営小売店)の出店に注力し出店ペースを加速、第2四半期累計で12店の出店。
- ▶ 「茂蔵Deli」直営7店舗を売上増加が期待できる「工場直売所」へ業態変更。
- ▶ 新店は総じて大型化、また既存店の集客力強化も実り、1割以上の店舗が安定的に月商1,000万円以上を実現。

2. 三代目茂蔵工場直売所(直営小売店) 月次売上高・1日当たり顧客数推移



セグメント別実績 - 外食事業・卸売事業

外食事業

- 個人消費が低迷、節約志向が増す中、業態を越えた競合他社との競争激化等を背景に、厳しい収益状況でありました。
- 顧客数・顧客単価ともに増加しにくい中、小売事業の成功事例をタイムリーに実施して顧客数の増加に努めました。
- 店舗数は09/3期29店舗から10/3期22店舗と7店舗減少（直営3店舗、FC4店舗）。

卸売事業

- 消費者の生活防衛意識が高くデフレ傾向が継続的であるため、通常の豆腐・揚物・油揚は価格競争が継続し厳しい状況にありました。
- 価格競争に巻き込まれない「1企業1企画」を提案し付加価値の高い商品販売に努めました。

貸借対照表(個別)

単位:百万円	09/9期 期末	10/9期 第2四半期	増減額
流動資産	739	700	39
現金及び預金	211	204	7
売掛金	356	320	36
棚卸資産	87	115	28
固定資産	1,740	1,752	12
有形固定資産	1,449	1,404	45
無形固定資産	14	8	6
投資その他の資産	276	339	63
資産合計	2,479	2,453	26

単位:百万円	09/9期 期末	10/9期 第2四半期	増減額
流動負債	972	895	77
買掛金	320	463	143
一年内返済・償還予 定長期借入金・社債	264	64	200
未払金	175	137	38
固定負債	351	281	70
長期借入金・社債	138	106	32
純資産(資本)	1,155	1,275	120
負債及び純資産合計	2,479	2,453	26

自己資本比率は46.6%から52.0%へ

【資産の部】

< 流動資産 >

売掛金の回収により減少しました。

< 固定資産 >

小売店舗出店に伴い、敷金及び保証金が増加したことにより、投資その他の資産が増加しました。

【負債及び純資産の部】

< 流動負債 >

買掛金につきましては、小売事業の売上増加に伴い仕入商品が増加しました。

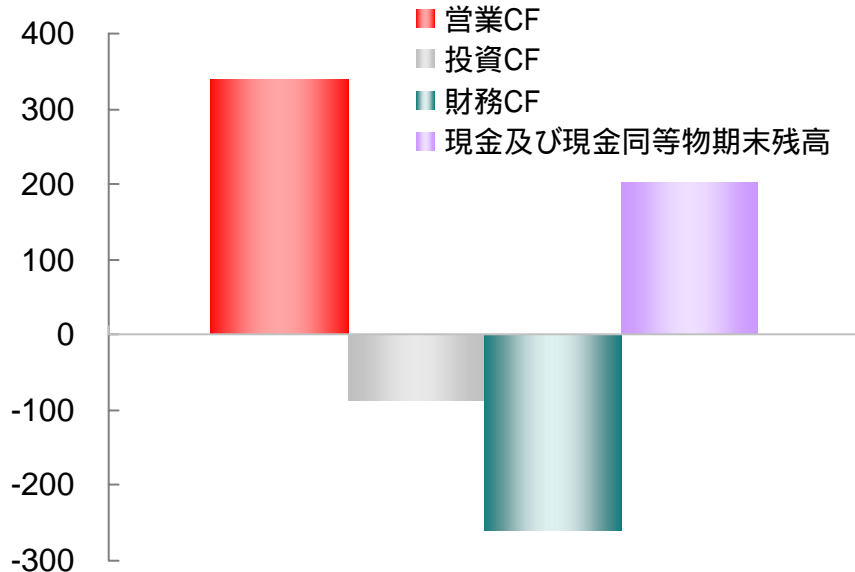
一方で、社債の残額を全額買入消却したことにより減少しました。

< 固定負債 >

長期借入金の返済を進めたことにより減少しました。

キャッシュフロー計算書(個別)

単位:百万円



単位:千円	2010/9期第2四半期
営業活動によるキャッシュフロー	338,907
投資活動によるキャッシュフロー	87,106
フリーキャッシュフロー	251,801
財務活動によるキャッシュフロー	259,642
現金及び現金同等物の増加額	7,730
現金及び現金同等物の期首残高	211,994
現金及び現金同等物の期末残高	204,264

【営業活動によるキャッシュフローの主な項目】

税引前四半期純利益	122,053千円
減価償却費	100,642千円
売上債権の増減額(増加:)	33,804千円
仕入債務の増減額(減少:)	143,152千円

【投資活動によるキャッシュフローの主な項目】

有形固定資産の取得による支出	48,003千円
貸付金の回収による収入	12,546千円
敷金及び保証金の差入による支出	60,160千円

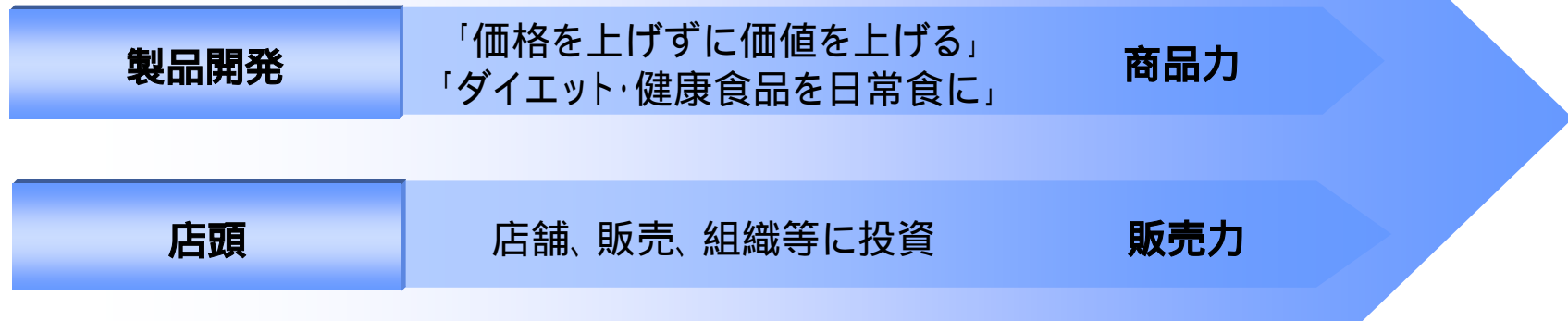
【財務活動によるキャッシュフローの主な項目】

長期借入金の返済による支出	32,148千円
社債の償還による支出	200,000千円
リース債務の返済による支出	37,372千円

2010年9月期 事業方針

新たな成長ステージへ

□ 小売事業へ経営資源の集中

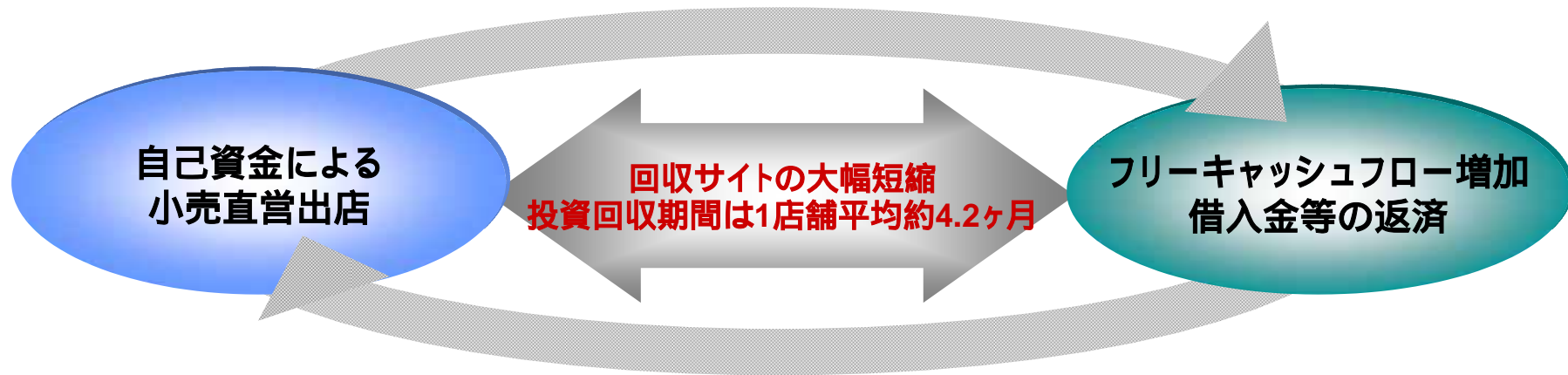


□ 安定した経営基盤と高収益体質への脱皮

減価償却費推移	ピーク時 07/9期末 490百万円	09年9月期末 248百万円	10年3月期末 95百万円
借入金推移	借入 + 社債ピーク時 (06/9期末) 2,688百万円	借入 + 社債 (09/9期末) 402百万円	借入 (10/3期末) 170百万円
			借入予定 (10/9期末) 0円

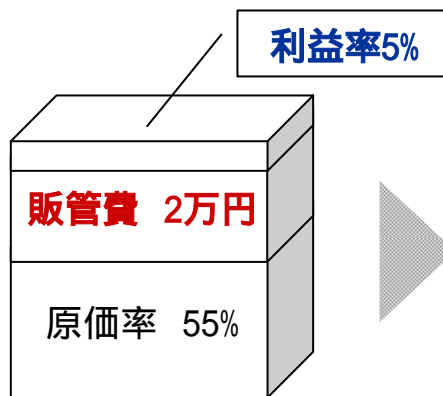
(減価償却、借入 + 社債は、08年9月末までは連結ベース、09年9月期末は連結対象無く個別の金額)

高収益体質への財務基盤強化

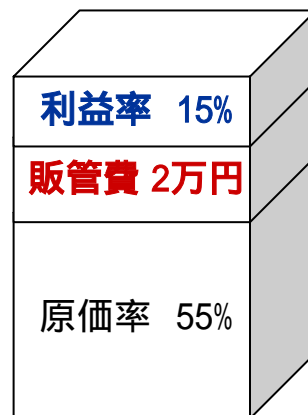


□ 高収益体質の理由 (50円豆富の店舗毎販売PL/日)

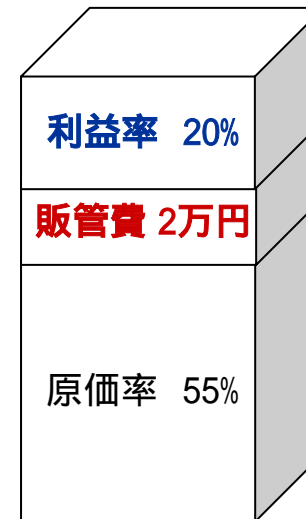
1,000丁売った場合



約1,300丁売った場合



約1,700丁売った場合



販売数量が増えても
販管費のほとんどが
固定費のため増えない

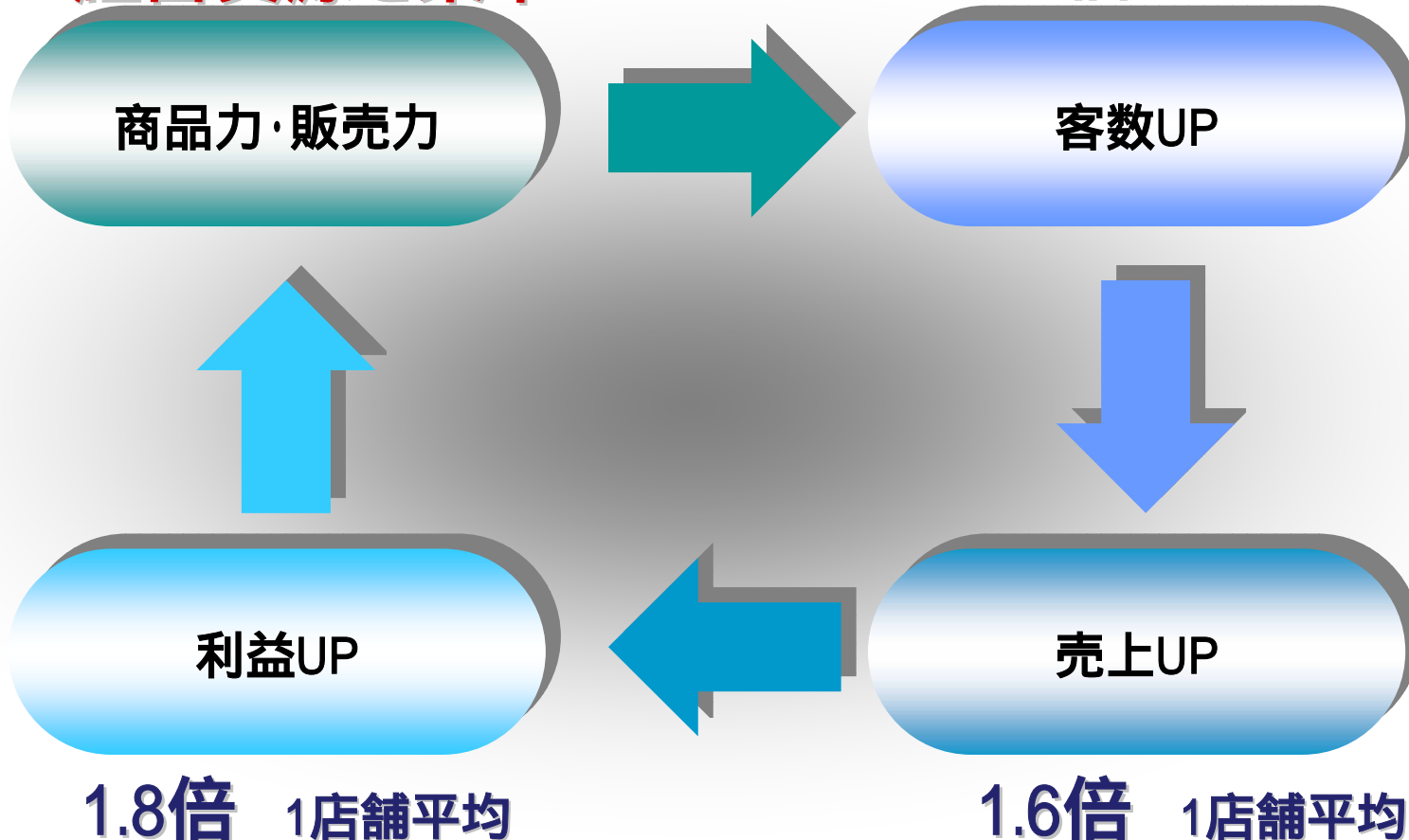
利益率はUP

今後は更に
集客力強化

店舗の大型化

製造小売モデルを主要成長ドライバーとして

製品開発と店頭に
経営資源を集中



比較対象は09/3月と10/3月のデータで、対象店舗数は09/03 30店舗、10/03 49店舗

製造小売モデル 成長の証は客数(集客力)

今期主要事業方針

主要テーマ

1. 小売事業の収益基盤拡大

- 直営で20店舗程度の新規出店
- 直営既存店の集客力強化で早期月間100万人の来店客数実現

2. 商品開発力強化

- 健康志向・嗜好トレンドをとらえた消費者ニーズに合った商品
- 消費者ニーズを喚起出来る商品(当社発の流行創出)
- 新商品投入のペースアップ

3. 製造効率向上の追求

- 製品アイテム別原価をより厳格に算出
- 製造工程・製造ラインの更なる効率化

「小売事業」の収益基盤拡大

持続的な成長のために

お客様に

価値を感じて頂くこと

当社が

企業として適正な利益を確保すること

「いいものを安く」提供できる販売チャネルの拡大

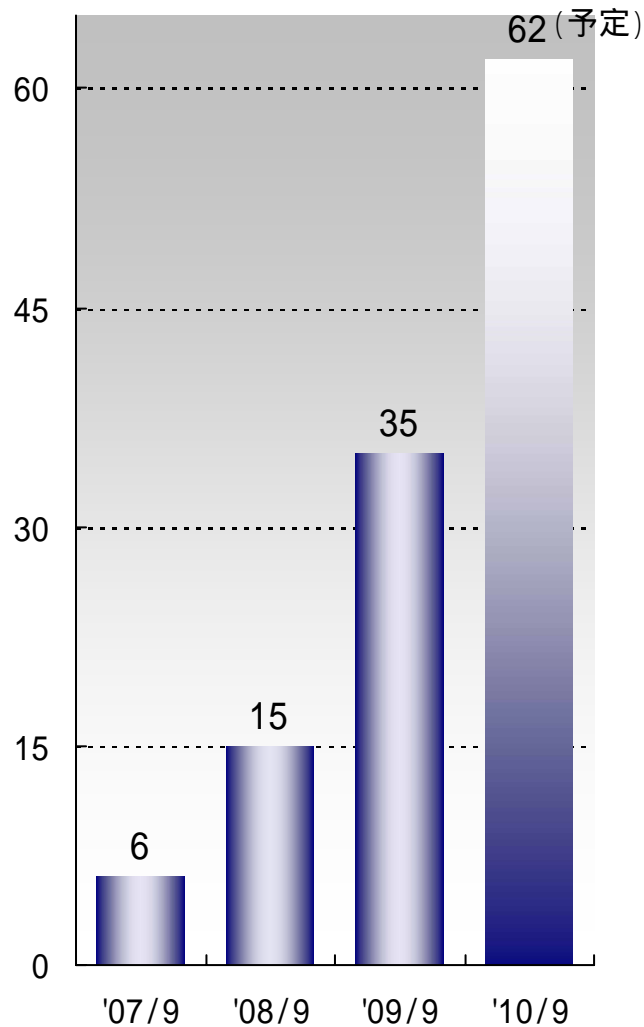
製造小売モデル

直営小売店
出店強化

直営小売店
集客力強化

「小売事業」の収益基盤拡大

三代目茂蔵工場直売所(直営小売店)
店舗数推移



直営小売店 出店強化

- 今期20店程度の出店を計画。但し、出店ありきではなく物件は大型店を中心に厳選。
- 「茂蔵Deli」直営7店舗は業態変更し「直売所」に。
- 店舗モデルの多様化を図るべく、**商店街型**に加え前期好結果が得られた**郊外型**を数店計画。更に今期は**商業施設内型**をパイロット出店し、検証中。

直営小売店 集客力強化

- 製造小売モデルにおける成長の証は今後も客数増。
- 「新商品情報」をご購入の方へ配布し、茂蔵ファンを拡大。
- 機動的に特売日等を企画し、三代目茂蔵工場直売所の認知度向上を図る。
- 近辺に大型店舗用地がある小型店舗は、大型店へ転換を進める。

新商品開発

製造効率の向上

「商品開発」と「製造効率向上の追求」

商品開発

- 新商品開発の方向性
 - ・安全・安心、健康志向、お得感のある商品、流行を作れる商品。
- 新商品開発ペース
 - ・09年9月期に比べ開発スピードを数倍(月間10~15品目程度)に。
 - ・取引メーカー(食品製造業者等)との協力・連携開発体制を構築。



- 「価格を上げずに価値を上げる」
 - ・国産大豆革命 主要大豆製品を外国産から国産へ。
- 「ダイエット・健康食品を日常食品に」
 - ・オレンジライン商品群の確立 顧客リピート率の向上へ。



「商品開発」と「製造効率向上の追求」

製造効率向上の追求

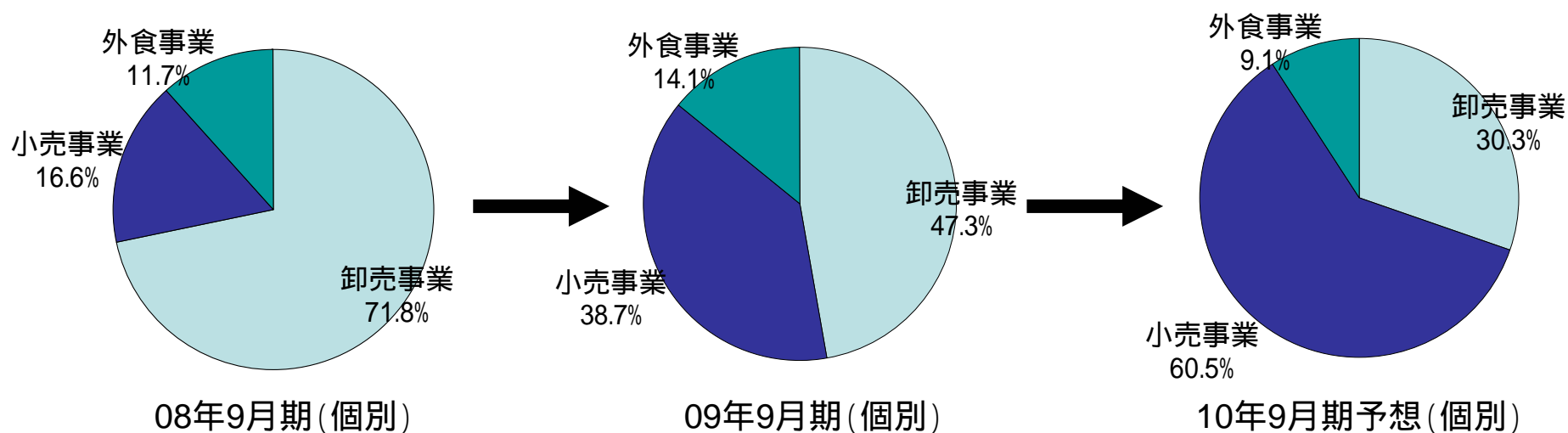
- 製品の単品原価算出をより厳格化、また各製品の販売量を可能な限りコントロールすることで、生産ラインごと・製造工程ごと・製品アイテムごとの製造効率を更に向上させ、製造原価の低減を追求。
- 中国大連の協力工場にて、中華点心のロングセラー商品および新製品を製造
当社より原材料となる「豆腐・おから等」を輸出して製品を輸入。
- 原材料等の安定確保・コスト低減のために仕入先との連携を更に強化。



2010年9月期 業績予想(個別)

単位:百万円		2009年9月期 実績(個別)	構成比	2010年9月期 予想(個別)	構成比	増減額
個別	売上高	5,499	100.0%	5,728	100.0%	229
	営業利益	208	3.8%	222	3.9%	14
	経常利益	193	3.5%	213	3.7%	20
	当期純利益	698	-	177	3.1%	875

事業別売上高構成比推移



“Excellent at Reasonable”

お問い合わせ

経営企画部長 兼 IR室長 沼崎 昭宏

TEL : 048・970・4949 FAX : 048・970・4889

E-Mail : ir@shinozakiya.com

URL : <http://www.shinozakiya.com/>

本資料は、2010年9月期第2四半期の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は2010年3月末時点のデータに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

会社概要

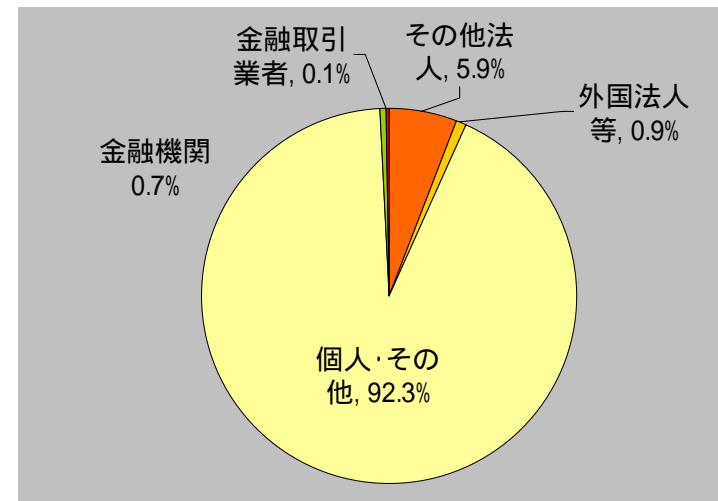
商号	株式会社 篠崎屋
設立	1987年1月24日
所在地	埼玉県春日部市赤沼870番地1
事業内容	大豆加工食品の製造販売及び、直営小売・外食店の経営と小売・外食店のフランチャイズチェーン運営等
代表者	樽見 茂（代表取締役社長）
資本金	2,710,865千円(2010年3月31日現在)
決算期	9月
従業員数	154名（2010年3月31日現在）



株式の状況

所有者別株式分布状況 (2010年3月末日現在)

	株主数(名)	株式数(株)	株式数分布比率
個人・その他	8,267	132,733	92.33 %
金融機関	4	983	0.68 %
その他法人	62	8,414	5.85 %
外国法人等	12	1,284	0.89 %
金融商品取引業者	9	352	0.24 %
合計	8,354	143,766	100.0 %



大株主情報 (2010年3月末日現在)

株主名	持株数	議決権比率
樽見茂	35,899 株	24.97%
樽見浩	3,000株	2.08%
株式会社鈴木物産	3,000株	2.08%
株式会社ホンダトレーディング	3,000株	2.08%
中山文博	2,450株	1.70%
矢立実	1,650株	1.14%
鈴木昌司	1,500株	1.04%
渡辺達哉	1,310株	0.91%
エンジェル2号投資事業有限責任組合	1,200株	0.83%
篠崎屋役員持株会	1,187株	0.82%